

1. はじめに

- 近年、大阪府においても時間雨量50ミリ、80ミリ以上の雨量の観測頻度が増加しており、今後の気象変動に伴う災害リスクの増大が危惧されている。（「今後の治水対策の進め方」〔H22.6大阪府〕）
- 「今後の治水対策の進め方」策定以降も、短時間で局所的な豪雨（時間雨量50ミリ、80ミリ以上）が観測されており、浸水被害が発生している。
- 近年の降雨及水害の特徴を整理し、これに対する取組み方針についてとりまとめる。

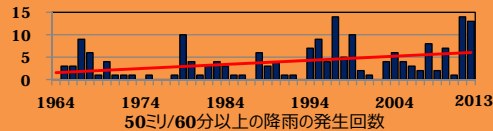
2. 大阪府における近年の降雨

◆大阪府における近年の降雨の傾向

○短時間（60分）雨量

- 50[≒] / 60分以上及び80[≒] / 60分以上の降雨の発生回数は増加傾向
- 確率処理による短時間（60分）の雨量は、増大

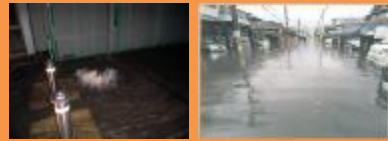
※大阪観測所における過去81年間の降雨に対する近年40年間の降雨の傾向



3. 大阪府における近年の水害

◆大阪府における近年の水害の現状

- 治水施設の整備の進捗に伴い、水害による家屋等の被害は減少している。
- 外水氾濫被害に比べ、都市部の内水浸水被害が圧倒的に多い。
- 都市部における内水浸水被害は、下水道、水路及び流域面積の小さい河川の雨水排水能力を超過する「短時間強雨」により引き起こされる。



4. 近年の降雨を踏まえた取組みに関する考え方

- 全国的には日降水量100mm、200mm以上の大雨の発生日数が増加しており、かつ将来これら大雨の発生回数が増加することが予測されている。大阪府においても、甚大な被害を引き起こすこのような大雨を対象とした地先の浸水リスク評価や対策を進めるべきである。
- 近年増加しつつある短時間強雨に対して「都市機能や資産が集中する都市部の下水道、水路、流域面積の小さい河川」における局所的なハード対策及び「逃げる」施策、「凌ぐ」施策について、幅広く検討を行うべきである。（以下、特に短時間強雨に効果的な対策について下線を付す。）
- 要対策地域や対策の優先順位については、外水氾濫及び内水浸水の両者を考慮したシミュレーション結果や浸水実績等に基づき、現況の浸水リスクを評価したうえで設定するべきである。
- ロードマップを作成のうえ、平成22年度に策定した「今後の治水対策の進め方」等に基づき、市町村と連携してハード対策とソフト対策を着実に進め、外水氾濫及び内水浸水による被害の軽減を図っていくべきである。

「逃げる」施策

- 垂直避難等の適切な避難行動につながる防災情報の配信強化や河川の浸水リスクの高い箇所へのカメラ設置など、住民の避難率の向上に資するソフト対策を充実させるべきである。
- 水位上昇が急激で避難等に要する時間を確保できない流域面積の小さい河川等については、雨量予測から水位想定を行うなど、住民の早期避難行動に資する新たな技術開発に取り組むべきである。
- 水防法の改正を受け、下水道についても府と市町村が連携のうえ、水位周知下水道、浸水想定区域及び特別警戒水位の指定に取り組むべきである。
- 長期的には外水氾濫と内水浸水の両者を一体的に解析し、現況の浸水リスクの評価及び両者を対象とした時系列の浸水想定図の作成に取り組むべきである。

「凌ぐ」施策

- 農林部局と連携のうえ、都市部に残された「ため池」等の既存ストックを有効に活用し、下水道、水路及び流域面積の小さい河川への流出を抑制するべきである。
- 都市計画部局等と連携し、浸水被害の軽減を視野に入れたまちづくり、土地利用の誘導等に取り組むべきである。

「防ぐ」施策

- 短時間強雨対策は、洪水調節施設及び流出抑制施設の設置等を中心に対策の検討を行うべきである。
- 地下河川や流域調節池等の着実な整備の推進を図るとともに、下水道の増補幹線と一体となった効率的な施設の整備に取り組むべきである。
- 計画降雨を超える短時間強雨に対しては、浸水実績があるなど浸水リスクの高い地域を対象として、貯留施設等のハード整備と自助を支援するソフト対策を組み合わせた総合的な浸水被害軽減対策を重点的に講じるべきである。

5. 近年の降雨を踏まえた取組み

「逃げる」施策

- 河川カメラ及び雨量水標の増設・防災情報配信システムの強化
- 流域下水道ポンプの運転情報の提供
- 局地的大雨の予測精度の向上
- 水位周知下水道・浸水想定区域等の指定（水防法の改正）
- 内水浸水リスクの評価及び内水ハザードマップの作成
- 河川・下水道を考慮した浸水想定図の作成



河川カメラの画像

「凌ぐ」施策

- 流出抑制
 - ため池、農業用水路、水田の治水活用
 - 流出抑制施設設置制度の構築
 - 雨水貯留・浸透（校庭貯留等）
- 耐水型都市づくり
 - 土地利用誘導・規制
 - 移転補償及び地盤嵩上げ補助等
 - 止水板の設置補助



泉州地域のため池群

「防ぐ」施策

- 地下河川や流域調節池等の着実な整備
- 下水道計画のレベルアップによる10年に1回程度の降雨に対する着実な整備
- 下水道浸水被害軽減総合事業等（超過降雨対策）
- 河川・下水道施設の効率化（一体整備・利用）
- 雨水ポンプの予備機の配備
- 寝屋川流域下水道ポンプの運転調整
- 既存ストックを活用した対策（ますの増設・改良等）



調節池